

# 中国人の労組支部長 実習生支える



## 中華料理店を閉め、待遇改善に奔走

賃金未払いやパワハラなどに苦しむ技能実習生ら外国人労働者を助ける労働組合に、1人の中国人がいます。日本の労働運動の仕組みを学び、労働条件の改善に15年にわたり取り組んできました。

2月末、「岐阜一般労働組合」（岐阜市）第二外国人支部で支部長を務める甄凱さん（60）は、ごろごろとスツケーズを引き、愛媛県今治市の縫製会社に向かつた。

そこで働く中国人の技能実習生3人からSNSを通じ、「3月に実習期間が終わるが、残業代がずっと払われていない」と相談されていた。労働時間や賃金の支払い状況を示す資料はメールですでにもらつてい

り休み中の3人と会社近くのコンビニで落ち合つて、労働組合による「強制帰国」を阻止したり、不当に取り扱つたりすることは不当労働行為になります」と告げた。3日間の交渉の末、社長は残業代の支払いを検討すると回答した。

甄さんは中国・北京の大

学生として来日。東洋大法学校部を卒業し、日本の紳士3人はすでに組合員で、未払い残業代が計約600万円あることを準備しておいた書面を添えて伝えた。

### 「異国で孤立 組合の役割重要」

労組の団体交渉権を使って外国人労働者を助ける動きは、ほかにもある。

「在日ビルマ市民労働組合」（東京）は、中小部品メーカーなどの労組でつくる産業別労組「JAM」（東京）の支えで02年に結成され、ミャンマー人実習生らを支援する。90年代から外国人英語教師らを支援してきたゼネラルユニオン（大阪）は09年に南米支部を設け、リーマン・ショック

社長は「3人と話し合いたい」と甄さんとの議論を避けようとした。だが、「組合に入ることを禁止したり、不当に取り扱つたりすることは不当労働行為になります」と告げた。3日間の交渉の末、社長は残業代の支払いを検討すると回答した。

甄さんは中国・北京の大學生として来日。東洋大法学校部を卒業し、日本の紳士3人はすでに組合員で、未払い残業代が計約600万円あることを準備しておいた書面を添えて伝えた。

岐阜県のJR岐阜羽島駅近くにあるビルを改装し、労働問題を訴えると同時に

相談に来るすべての実習生が労組に入るわけではなために空港に急行する事もないとわざい。名前は業界で知られるようになります」と告げた。3日間の交渉の末、社長は残業代の支払いを検討すると回答した。

甄さんは中国・北京の大學生として来日。東洋大法学校部を卒業し、日本の紳士3人はすでに組合員で、未払い残業代が計約600万円あることを準備しておいた書面を添えて伝えた。

岐阜県のJR岐阜羽島駅近くにあるビルを改装し、労働問題を訴えると同時に

相談に来るすべての実習生が労組に入るわけではない。「限られた期間しか日本にいられないから、『闘いは時間の無駄』と稼ぐのを優先する実習生もいる。それも生きている人間のホンネ」と理解する。それでも、「日本に来たのは自己責任だろう」と雇い主に責められて訴えをためらう実習生には、「権利を主張するのではなく、声を上げることが、あとから来る誰かのためになる」と励ます。

## 残業代不払いで団交 ■ シエルターも開設

に広がり、相談は全国から寄せられる。交渉は実習生の側に立ち、受け入れ側に

ある実習生らのため、シエルターも作つた。現在、元実習生ら約20人が暮らしている。甄さんも普段、夕食を共に囲む。

談を行つた2004年ごろ、個人加盟できる労組として「全統一労組」（東京）を紹介された。外国人も労働組合の団体交渉で交渉できることを知つた。ほどなく縫製業の盛んな岐阜県で実習生の過酷な待遇が問題となり、店のある埼玉と岐阜の往復が増えた。店は閉め、組合活動に10年から専念するようになった。

「助けられた」という評判が中国語のSNSを中心

境のひどさに驚いた。助けられないかと県に相談を行つた2004年ごろ、個人加盟できる労組として「全統一労組」（東京）を紹介された。外国人も労働組合の団体交渉で交渉できることを知つた。ほどなく縫製業の盛んな岐阜

ク後に解雇された日系外国人労働者の相談にのつた。労働問題に取り組む嶋崎量弁護士は「異国で孤立する外国人労働者、とくに劣悪な環境にある技能実習生の労働問題解決に、一部の労組が重要な役割を果たしてきました。実習生との接点は、日本人にも労組のよさを再認識し、原点に立ち返るよい機会になる。今後さらに支援の輪が広がってほしい」と話す。（堀内京子）